

〔令和2年12月4日
が ん 対 策 課〕

がんの75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)の令和元年集計結果について

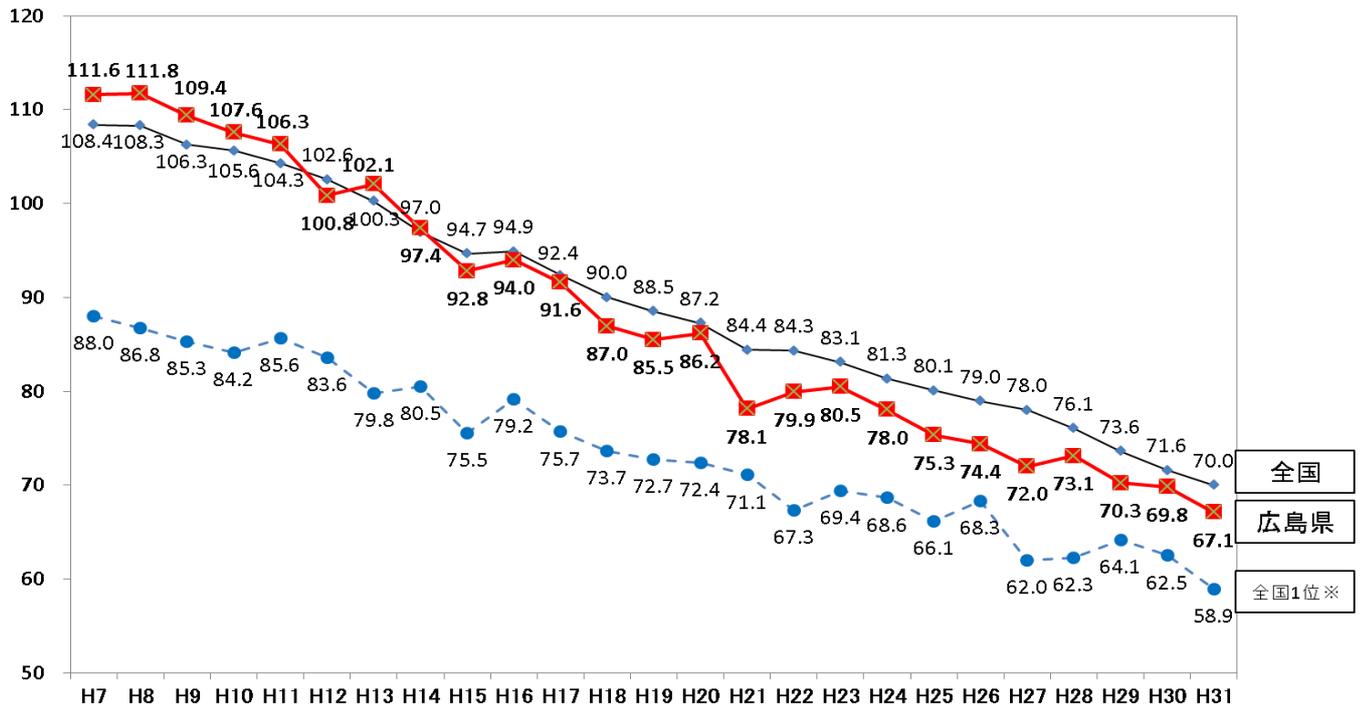
1 趣 旨

- 令和2年11月5日に国立がん研究センターから令和元年の「都道府県別、年別、性別、悪性新生物部位別75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)」が公表された。
- 平成30年度からスタートの第3次広島県がん対策推進計画においては、「遅くとも第4次計画期間内(R6~R11)にがんの死亡率(人口10万人当たり死亡者数)全国一位」を目標とし、令和元年にはがんの死亡率65.3人以下を目指していたが、実績値は67.1人と目標を下回る結果となった。

(単位：人口10万人当たり人)

区分	平成11年	平成21年	平成29年	平成30年	令和元年	目標(R5)	減少率	
							(H11→R1;20年)	(H21→R1;10年)
全 国	104.3	84.4	73.6	71.6	70.0	—	32.9%	17.1%
広島県 (全国順位)	106.3 (37位)	78.1 (10位)	70.3 (17位)	69.8 (19位)	67.1 (13位)	58.0	36.9%	14.1%

悪性新生物75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対) 年次推移



※がんの死亡率の最も低い県：長野県(H7~H28, H30~R1), 滋賀県(H29)

2 集計結果の受け止めと今後の対応

- 前年より減少し、全国順位も上昇、目標とのポイント差も縮まった(2.6p⇒1.8p)。長期的な傾向としては着実に減少しているが、目標には達していない。
- 今後、男女別、がん種別毎に更なる分析を行い対応を検討するとともに、受動喫煙防止対策などによる「予防」、早期発見・早期治療に繋げる「検診」受診率向上対策の強化、更にはがん診療連携拠点病院と地域の医療機関との連携による「医療」提供体制の充実に取り組んでいく必要がある。

【参考】

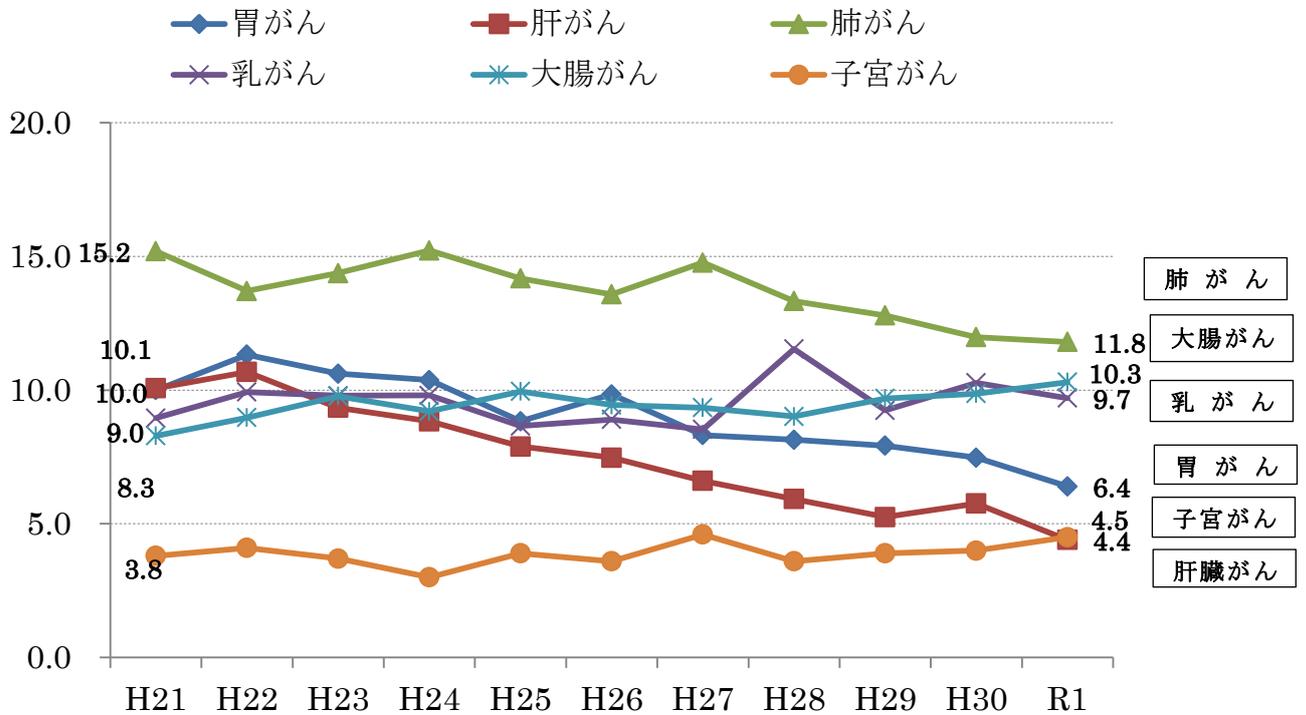
◇ 全国及び本県の主な部位別の状況

1 令和元年のがんの死亡率

(単位：人口10万人当たり人)

区分	胃がん	大腸がん	肺がん	子宮がん	乳がん	肝臓がん
全国 (増減率 H21→R1)	7.2 (▲39.0%)	9.8 (▲3.4%)	12.5 (▲16.1%)	5.1 (21.4%)	10.6 (▲0.3%)	4.0 (▲49.6%)
広島県 (増減率 H21→R1) (全国順位 H30→R1)	6.4 (▲36.0%) 19位⇒9位	10.3 (24.1%) 25位⇒34位	11.8 (▲22.3%) 12位⇒18位	4.5 (18.4%) 8位⇒12位	9.7 (8.4%) 23位⇒10位	4.4 (▲56.3%) 47位⇒34位

2 広島県のがんの死亡率の部位別の推移 (H21～R1)



年齢調整死亡率とは

年齢構成が基準人口と同じだったら実現されたであろう死亡率のこと。がんは高齢になるほど罹患や死亡が多くなり、年齢構成が異なる集団でがんの死亡率を比較するためには、年齢構成の影響を補正する必要がある。その方法の一つとして用いられるもので、年齢階級別に死亡率を計算し、基準とする人口集団の重みをかけあわせて算出する。一般に国内での統計においては、基準人口は昭和60(1985)年日本人モデル人口が用いられる。通常、人口10万人当たりの数値で表す。

$$\text{年齢調整死亡率} = \left\{ \left(\text{平成〇年 年齢5歳階級別粗死亡率} \right) \times \left(\text{基準人口の当該年齢の人口} \right) \right\} / \left(\text{各年齢階級の総和} / \text{基準人口総数} \right)$$